

# 中国の野生動物関連政策の展開に見るワンヘルス・アプローチの課題

## COVID-19の原因究明と対応をめぐって

大塚健司\*  
Kenji Otsuka

### 1. はじめに

2020年以来、我々が直面している新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックは、医療だけでなく、政治、経済、社会の各方面に甚大な影響をもたらしている。その根源には地球上の多様な生物種の共存・共生のあり方という古くて新しいエコロジーの課題があり、それが社会経済システムのグローバルな拡大の中で様々な問題を生み出している（大塚 2021）。本研究ではこうしたエコロジーの問題を考えるにあたってグローバルヘルスの研究者らが提起してきた人間、動物、環境の相互のつながりを踏まえたワンヘルス（One Health）アプローチに着目する。ワンヘルスについては関連セクターを扱う各国際機関も注目しており、例えば国際連合食糧農業機関（FAO）はワンヘルス・アプローチには医療・衛生、農業・食品、環境等多様なセクターを越えた連携のために各国各部門の関連法制度にワンヘルスの理念を位置づけ、事業活動の規制と誘導を行っていくことが必要であると指摘している（FAO 2020）。COVID-19の最初の震源地となった中国においても集団感染の発生源とされた市場の閉鎖から約2年経って野生動物保護法の改正がなされたところである。それではその過程でワンヘルスの理念やそれに基づく対策はどこまで組み込まれたのか。本研究では、中国における野生動物保護法の改正とそれに関連する政策の展開について、COVID-19の原因究明と対応をめぐる過程と関連づけながら、人間・動物・環境の健康・健全性を一体的にとらえるワンヘルス・アプローチの課題を考察する。

### 2. 方法

本研究では2020年2月24日に第13期全国人民代表大会常務委員会第16回会議で採択された野生動物の違法取引や食習慣の是正に関する「決定」を中国でCOVID-19が確認されて最初になされたワンヘルス・アプローチによる政策の起点とみなし、2022年12月30日の第13期全国人民代表大会常務委員会第38回会議にて決議された野生動物保護法の「改正」を一連の政策のひとつの着地点ととらえる。そしてその起点と着地点をつなぐ関連する政策の展開について、インターネットに公開された政策文書や記事、関連書籍などの資料をもとに政策担当者や専門家の意見、関係団体のアクションの相互のつながりを追いながら、その背後にある動機・誘因を読み解いていく。そして当初の全人代の決定で意図された目的や手段が、野生動物保護法の改正においてどのように位置付けられたのかを明らかにす

---

\* 日本貿易振興機構アジア経済研究所 Institute of Developing Economies (IDE-JETRO)  
〒261-8545 千葉県美浜区若葉 3-2-2 E-mail: kenji\_otsuka [at] ide.go.jp

ることで、ワンヘルス・アプローチによる政策がどこまで実現したのか、その背景要因は何かについて考察する。

### 3. 考察

中国における野生動物の利用と規制をめぐる政策展開を見ると、全人代の決定時は COVID-19の原因として WHO・中国合同調査チームが挙げた野生動物から人間へのウイルスのスピルオーバーという SARS の原因と同様であることを前提に、すべての陸生野生動物の食用を禁止するという例外なきかつ厳格な対応を求める声が社会各層から沸き起こり、立法機関である全国人民代表大会常務委員会もそれに呼応したいわば政治決定がなされたことが確認できる。しかし、その後の法制度の制定・改正の推移を見ると、野生動物の利用と規制のバランスをとったものに落ち着いているように見受けられる。その背景として第一に、COVID-19を含む新興感染症としての人獣共通感染症の発生源を科学的に同定することが容易でないなかで、初動において中国国内および中国と国際社会の間において感染状況の共有が十分になされなかったこと、そうした発生源同定が不確実な状況のなかで中国の責任を問う声がアメリカを中心に国際社会で高まったことで中国が COVID-19の自国発生源説に対する疑問を主張するようになったことなどから、全人代の決定の前提が揺らいできたことが挙げられる。第二に、中国において野生動物の利用を主産業とするセクターや地域が一定程度存在すること、さらには食用のみならず薬用目的とした野生動物利用の歴史があることなど、社会経済的、歴史的な背景があることにも留意が必要であろう。

### 4. 結語

今回のパンデミックの最初の震源地となった中国において、その原因究明と初動対応、その後の野生動物の利用と規制をめぐる政策展開を見ると、いったんパンデミックとして世界に広がった後では科学、政治、社会、経済が複雑に絡まり合い、科学的な知見をもとにしたワンヘルス・アプローチによる予防策について国際的な合意形成のみならず、中国国内での合意形成すら困難であることを示唆している。とりわけ中国における野生動物の利用と規制をめぐるこの3年間の政策展開を見ると、中国社会が野生動物の利用と規制のバランスの間で揺れ動いてきたことを確認できる。人間、動物、環境の相互関係を踏まえたワンヘルス・アプローチの課題とは、パンデミックをどう防ぐかという命題を越えて、平時から野生生物がもたらす恩恵とリスクの両面に向き合う社会をどうつくっていくのかということに他ならない。

### 参考文献

FAO (2020) *One Health legislation: Contribution to pandemic prevention through law.*

大塚健司 (2021) 「新興感染症パンデミックのエコロジカル・リスク・ガバナンス—統合的健康アプローチ『ワン・ヘルス』の課題」『環境経済・政策研究』14(1), 59-63.